

# 『金属プレス部品 金型設計製作から量産までの一貫体制』



有限会社 榮 真

事務所及び第1・第3工場



所在地 和水町高野945番地

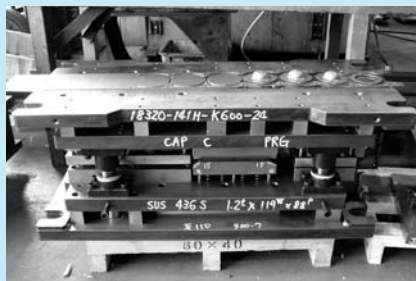
和水町での操業開始 昭和62年

従業員数 40人

資本金 300万円

年間売上額 約4億円

プレス金型、各種治具・検具の設計製作をはじめ、プレス加工（35ton～400tonプレス機18台）や板金加工、スポット溶接などをおこなう自動車部品メーカーや建材メーカーなどへ納入しています。



プレス金型



プレス加工部品



板金加工部品

## 作業工程



金型設計



金型制作



生産



有限会社 榮真は、金型製作と金属部品の製造を行っています。生産活動全てに渡って常に環境に配慮すると共に地球環境に優しい製品作りを目指しています。

代表取締役社長 野田 俊一

## 作業風景



板金加工



プレスライン加工

※和水町企業等懇話会に参加している企業を紹介していきます。

## 水 援 隊 だ よ り



水援隊隊長 平 晋一郎

菊池川の下流に位置する本町で、昔から親しまれてきた川魚はハエ「鮠」、フナ「鮠」、コイ「鯉」、アユ「鮎」、カマツカ「鎌柄」、ウナギ「鰻」、ヤマタロガネ「もくす蟹」（節

足動物）などです。これらは食用として貴重なものでした。その他ドンコ「鈍甲」、ナマズ「鯰」、ヨツメ、ギギユウ「義蜂」、ゴリ「鮠」、シビンチャ「鰻」、ヤツメウナギ「八目鰻」（円口類）、ダグマ「手長海老」（節

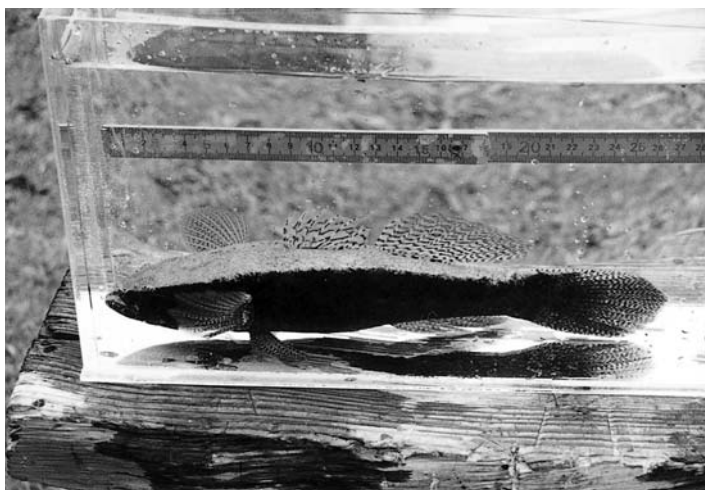
足動物）、など子供達の格好の遊び相手でした。食用としても美味しい魚ばかりで、子供達が自然と親しみ、狩猟本能を満たして、体を鍛えながら無意識のうちに生態系のバランス、生物同士の共存関係など自然の仕組みを学ぶのに掛け替えない相手でした。

魚の種も個体数も非常に減りました。先日水援隊で支流を何箇所か巡りましたが、オイカワ（シラハエ）、カワムツ（ヤマソ）は沢山生息しています。日平川の砂地では体長20センチ程のカマツカが数十匹の群れをなして泳いでいるのを観た時ほっとしました。

種の数が減ったといっても絶滅したのではなく、非常に個体数が減ったということであって、以前のようにいろんな魚を簡単に目にするのができなくなったということです。

ほそぼそと種を保存しているようです。前述の魚種のうちヨツメ、ギギユウ、シビンチャ、ヤツメウナギ、それにカワアナゴ、などは日本レッドデータブックに掲載され、絶滅危惧種または希少種に指定されています。

カワアナゴは和水町では「ナガフチドンコ」と言われハゼ科の一種です。四国、九州の太平洋側と屋久島に分布し、河川の下流域から汽水域（海水の少し混ざった所）にかけて生息しています。全長25センチ前後で、背面は平たく小さな鱗で被われています。ドンコに似ているのでこの名がついたのでしょう。本県では菊池川、緑川、球磨川、一町田川で確認されています。夜行性といわれていますが昼間でも釣れる事があります。昭和20年代までは竈門あたりで40センチ近くの大物が獲れていたのですが、最近は希少種に指定されて



いるくらいだから知らない人が多いようです。旧三加和地区・旧菊水地区の人も見たいことのない方々が多いのではないのでしょうか。  
4・5年前、相澤教育長が白石堰の下で採集された本種（体長28センチ）写真があるので掲載します。